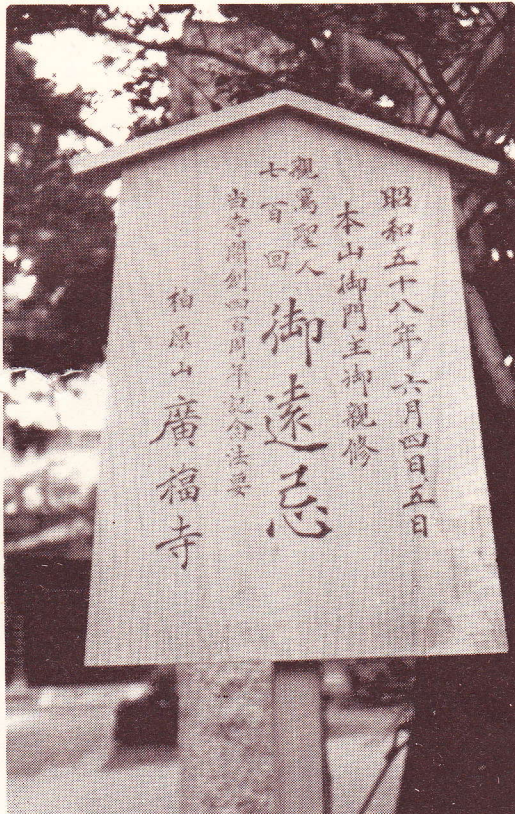


よりだ寺福廣

3号

親鸞聖人七百回御遠忌法要 当寺開創四百周年記念法要 御案内

謹啓 皆様にはますます御清祥の御事とお喜び申し上げます。
さて、来る六月四日(土)、五日(日)の両日、表記の御遠忌法要を厳修する運びとなりました。すでに御案内のとおり京都の本山仏光寺から御門主様の御下向を仰ぎ、法要の御親修を賜り、また新潟教区御法中はじめ親戚寺院の御出仕を頂き、にぎにぎしく、しかも厳肅のうちに法要が勤まりますことは御同慶にたえません。時あたかも当寺開創四百周年に相当し御遠忌に併せまして記念法要を勤めることとなりました。宗祖聖人の越後御化導の流れがこの麓の地をうるおした法縁に想いをいたしますとき、まことに感慨ひとしとお申さねばなりません。前回の六百五十回御遠忌は当寺で



は明治三十九年に勤まりました。以来実に七十二年ぶりに盛儀を迎えることとなります。かねて御遠忌をめざし堂宇の整備に努めてまいりましたが、「住職健在のうちに御遠忌を」というありがたい御発議があり機縁ここに熟し御遠忌を迎えますことは、ひとえに各位の御懇念の賜物と深謝にたえません。

御遠忌事業の推進に当たり別記のとおり総額七百万円の予算が計上され、実行委員会を組織して御協力をお願いすることになりました。寺族はもとより門信徒各位の総力を結集して当たらなければ達成は到底おぼつかないところであります。この趣旨からお参り頂くとき各戸相応に御懇志へ一応の目安として一口二千元以上を申し合わせましたVを上納下さるようお願いを申し上げます。

遠く宗祖の御遺徳をしのび、また当寺開創の昔に想いをはせ、お念仏に生かされて生きる真宗門徒として、いよいよ聞法の輪を広げる御縁がこの法要を契機として固く結ばれることを念じてやみません。何卒お誘い合わせしてお参り頂き五十年に一度の勝縁にあわれましますよう御案内を申し上げます。 合掌

昭和五十八年四月四日

柏原山 広福寺

住職・世話方 一同

門信徒 各位

御遠忌法要の日程

< 6月4日 (土) >

午前 8:00	晨朝(おあさじ)法話
8:30	御門主様御着
10:00	日中(おにっちゅう)
11:00	御親言(おことば)
11:15	法 話
12:00	お と き
午後 1:00	あいさつ
1:20	表 彰 式
2:00	大速夜(おたいや)
3:00	聞法の集い、感話発表
3:30	法 話 (4:00 下向)
7:30	御通夜(おつや)
	御伝文・法話

< 6月5日 (日) >

午前 7:40	御門主様御着
8:00	晨朝(おあさじ)
8:40	帰敬式(おかみそり)
9:00	法 話
10:20	庭儀式(おねり)宿御発
11:00	お と き
11:30	御満座(おまんざ)
12:30	御 親 教
12:45	複 演 (1:00 下向)
午後 1:20	千 秋 楽
2:00	千秋楽 祝宴

参詣のしおり

世話方・総代衆か
四月中に各字の

のおあさじ後とり行われ御門主様御染筆の法名とお袈裟、御本山定紋入り固めのお盃が授けられます。この機会に受式され真宗門徒として仏弟子となられるようおすすめします。

おねりの稚児

六月五日(日)午前十時

ら各戸を回って頂き御遠忌の御案内をさしあげ記念品を配布します。記念品は念珠と念珠袋セット、散華、それに柏原山広福寺之景となっておりまふだんのおとき券(一人一日千円)をあらかじめ買って頂きます。御遠忌の当日、券とひきかえに受付でおときをお渡しすることになります。はきものは受付でポリ袋をお渡しいたしますので各自で始末して頂きます。

おかみそり

り)を受ける御希望
帰敬式(おかみそ



氏宅を出発、広沢新八殿―木原鮮魚店殿―小林栄蔵殿―渡辺七左衛門殿と村内をねり歩き本堂に入室します。この庭儀式に稚児として多数のこどもさんが参加されみ仏と御縁を結ばれるようお願いいたします。幼児から小中

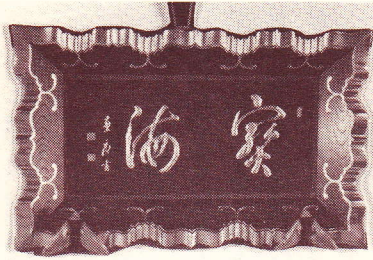
駐 車

車で参詣される方も多いかと存じますが、法要当日は当寺境内での駐車、乗り入れはできません。交通整理係の指示により乗降車、駐車をお願いいたします。駐車場の設定を考えておりますが、かなりの混雑が予想されます。できますれば朝送りつけおかえりに迎えにきて頂く、または村内の当寺近くでお知り合いがありましたらそこで駐車をお願いして頂ければ大変にありがたいと存じます。御協力をお願いいたします。

お申し込みの期限

◎おとき券と◎おかみそりは準備の都合もありますので四月末日までお願いいたします。◎稚児の参加は五月十五日(日)までお願いいたします。各字の世話方・総代衆にお取次をお願いしてあります。なお遠くの御門徒の場合は、直接当寺宛、電話(025694-2437)でお申し込み下さい。御遠忌前、いろいろお電話のお問い合わせもあろうかと存じます。日中ですとちょっと境内に出たりしておりますので、なるべく朝か晩にして下さるようお願いいたします。

学生までとします。御希望の方は参加費二千五百円を添えて別紙申し込み書によりお申し込み下さい。参加費は稚児装束貸衣裳代、手持造花、念珠、おひる(付添分も)、お土産にあてます。装束をつける控え所として近山富士弥氏宅をお願いいたしました。



お名号のはたらき

親鸞聖人は「教行信証」に南無阿弥陀仏の名号を「真如一実の功德宝海なり」と、また「正信偈」には「功德の大宝海に帰入す」と示されました。法界無尽の功德をおさめて欠け目のないお名号のはたらきを大いなる宝の海にたとえて示されたのです。阿弥陀仏が自他平等の大慈悲によって御成就になった名号ですから善人も悪人もへだてなく一切の衆生がこの功德にあずかります。名号のいわれは耳から聴かせて頂き、名号にそなわったお力は無碍の光明となって私の心を照らして下さる。その光明によってわが身の罪業深重に気づかせて頂き、身も心も如来におまかせ申し上げ仏心と一つになる時、海のような名号の広大な功德がわが身心に満ち満ちて下さるのです。(写真「宝海」の横額)

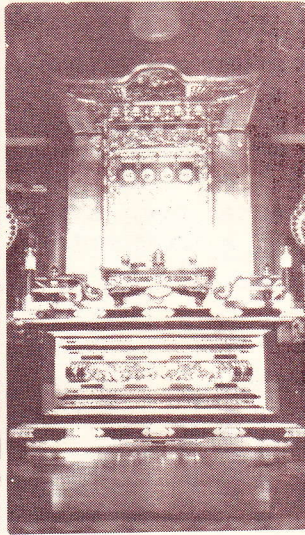
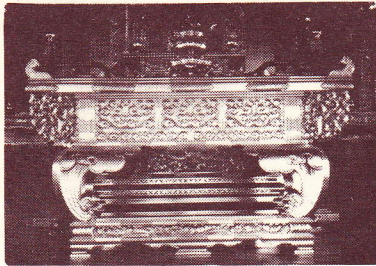
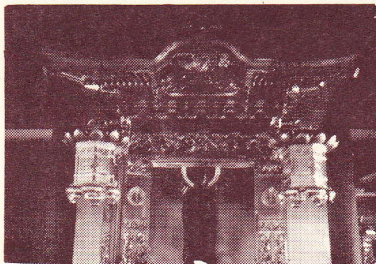
広福寺 住職

柏原 恵応

お荘厳の整備

篤志の方々の御懇志上納により昨

年中に中尊宮殿・須弥壇(写真右)、中尊上卓、余間高卓、菊灯三対、内陣畳一式が整いました。また本年梵鐘講までに中尊前吊灯籠一对(写真左上)、前卓の塗箔(写真左下)が整い内陣のお荘厳は面目を一新しました。なお御本尊の後背、お台座、宮殿の塗箔補修には永年多数の方々の上納された女性講の講金を世話方衆の御同意を得ましてとりくずし金百五万



円を工事費の一部に繰り入れさせて頂きました。また梵鐘講中(代表菅保殿)から吊灯籠一对を御寄進頂きました。有縁の多くの方々の御懇念が結集されお荘厳が整いますことは本当に御同慶にたえないところであります。

▼御寄進ありがとうございました▲

書院調度 版画牡丹図の額	鈴木 力 殿
書院調度 青銅花瓶	榎坂 覚也 殿
山号額・宝海横額	柏原 恵行 殿
本堂莊嚴懇志(一〇万円)	武石児太郎 殿
前卓塗箔懇志(二〇万円)	松宮 信一 殿
本堂莊嚴懇志(一五万円)	山岸 義正 殿
本堂莊嚴懇志(一〇万円)	木村三千雄 殿
本堂莊嚴懇志(一〇万円)	平岡 豊七 殿
余間経卓二基	田中 恵証 殿
御遠忌懇志(五〇万円)	広福寺 住職 殿
御遠忌懇志(五〇万円)	広福寺 当院 殿

お知らせ

御遠忌の両日、おあさじ、おにっちゅう、おたいや、おつや、おねり、おまんざの法要行事三十分前から梵鐘をつきます。五分前には喚鐘をつきます。また朝御門主様がお宿をおたちになる時と当寺にお着きになる時に、それからおねりの宿から御出発のとき、本堂に御入りになる時には合図として花火を打ちあげます。

◎慣例により御遠忌の勤まった年には六月二十三日の報謝講はとりやめになります。

定例総代会議決議御通知

去る二月六日定例各字総代会議が開かれ、I 昭和五十七年度当寺勸金決算書、II 御遠忌事業決算書、III 昭和五十八年度当寺勸金予算書、IV 御遠忌事業予算書がそれぞれ別表のとおり承認されましたので御通知申し上げます。なお今後とも当寺護持経営につきまして一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

御遠忌を迎える準備の対応につきまして細目にわたり御協議を頂きましたが、近く御遠忌実行委員会の会議をもちまして具体的な取り組みにかかることになりました。

六月に御遠忌が勤まりますので、本年度の勸金はつとめて五月中に上納して頂くようお願いすることが申し合わされました。きびしい昨今の情勢下まことに恐縮ながら事情御賢察の上御協力下さるよう伏してお願いを申し

上げます。

御遠忌中御門主様が心光寺へ御立ち寄りになります。このため心光寺本堂諸仏具調達整備費として総額三十五万五千二百円を本年度予算から支出することが提案され承認されました。昭和五十八年二月六日

広福寺住職・世話方一同

門徒各位

I 昭和57年度当寺勸金決算書

<収入の部>

科 目	決 算 額	予 算 額
勸 金	3,036,000	2,500,000
懇 志	1,802,500	0
寺 族 懇 志	540,000	0
繰 入 金	1,050,000	0
預 金 利 息	7,573	9,000
繰 越 金	60,478	60,478
計	6,496,551	2,569,478

<支出の部>

科 目	決 算 額	摘 要
寺 務 経 常 費	(658,368)	
負 担 金	288,250	本山護持金ほか
事 務 費	2,848	
通 信 費	11,250	
会 議 費	53,610	
教 化 費	59,000	本山派御布教
営繕管理費	231,410	
門徒交際費	12,000	家屋新築見舞
※ 事 業 費	5,779,679	御遠忌事業
繰 越 金	58,504	
計	6,496,551	

II 昭和57年度 御遠忌事業特別会計決算書

<収入の部>

科 目	決 算 額	摘 要
前年度積立金	1,805,000	
本年度積立金	5,779,679	※勸金事業費
利 金	57,911	
計	7,642,590	

<支出の部>

科 目	決 算 額	摘 要
事 務 通 信 費	14,000	
印刷広報費	359,000	複写機ほか
会 議 費	57,960	
法 要 費	110,080	本山冥加金ほか
荘 厳 費	5,053,100	内陣荘厳ほか
記 念 品 費	83,450	
未払工事引当金	765,000	前卓、畳工事
繰 越 金	1,200,000	次年度積立金
計	7,642,590	

III 昭和58年度当寺勸金予算書

<収入の部>

科 目	予 算 額
勸 金	2,500,000
寺 族 懇 志	500,000
預 金 利 息	7,500
繰 越 金	58,504
計	3,066,004

<支出の部>

科 目	予 算 額
寺 務 経 常 費	650,000
事 業 費	2,300,000
予 備 費	116,004
計	3,066,004

IV 昭和58年度 御遠忌事業特別会計予算書

<収入の部>

科 目	予 算 額	摘 要
前年度積立金	1,200,000	
志納金・香儀	1,500,000	
本年度積立金	2,300,000	勸金事業費
借 入 金	2,000,000	
計	7,000,000	

<支出の部>

科 目	予 算 額	摘 要
事 務 通 信 費	80,000	
印刷広報費	120,000	
会 議 費	200,000	
法 要 費	300,000	
本 山 関 係 費	900,000	旅費・宿泊・接待
法 礼 費	2,505,000	
謝 礼 費	410,000	
法 中 宿 泊 費	150,000	
賄 費	585,000	おとし・千秋楽
記 念 品 費	971,500	
雑 費	250,000	
予 備 費	528,500	
計	7,000,000	